

—みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜—

横浜みどりアップ計画 3か年の評価・提案 (案)

横浜みどりアップ計画市民推進会議平成 28 年度報告書

横浜みどりアップ計画市民推進会議

平成 29 年 月

目 次

1	はじめに	1
2	横浜みどリアップ計画と市民推進会議	2
	(1) 横浜みどリアップ計画	
	(2) 横浜みどリアップ計画市民推進会議	
3	市民推進会議 平成 28 年度の活動実績	5
	(1) 平成 28 年度の活動の概要	
	(2) 活動の詳細内容	
	①市民推進会議（全体会議）	
	②施策別専門部会	
	③調査部会（現地調査）	
	④広報・見える化部会	
4	横浜みどリアップ計画 3か年の評価、提案	10
	◆計画の体系	
	◆評価・提案の概要	
	◆各取組の柱のハイライト	
	(1) 取組の柱 1 市民とともに次世代につなぐ森を育む	15
	施策 1 樹林地の確実な保全の推進	
	施策 2 良好な森を育成する取組の推進	
	施策 3 森と市民とをつなげる取組の推進	
	(2) 取組の柱 2 市民が身近に農を感じる場をつくる	22
	施策 1 農に親しむ取組の推進	
	施策 2 地産地消の推進	
	(3) 取組の柱 3 市民が実感できる緑をつくる	29
	施策 1 市民が実感できる緑を創出する取組の推進	
	施策 2 緑を楽しむ市民の盛り上がりを醸成する取組の推進	
	(4) 効果的な広報の展開	35
	市民の理解を広げる広報の展開	
5	市民推進会議委員名簿	38
6	市民推進会議委員からのコメント	41
7	市民推進会議広報誌	45
	「みどリアップQ」（平成 28 年度発行分）	

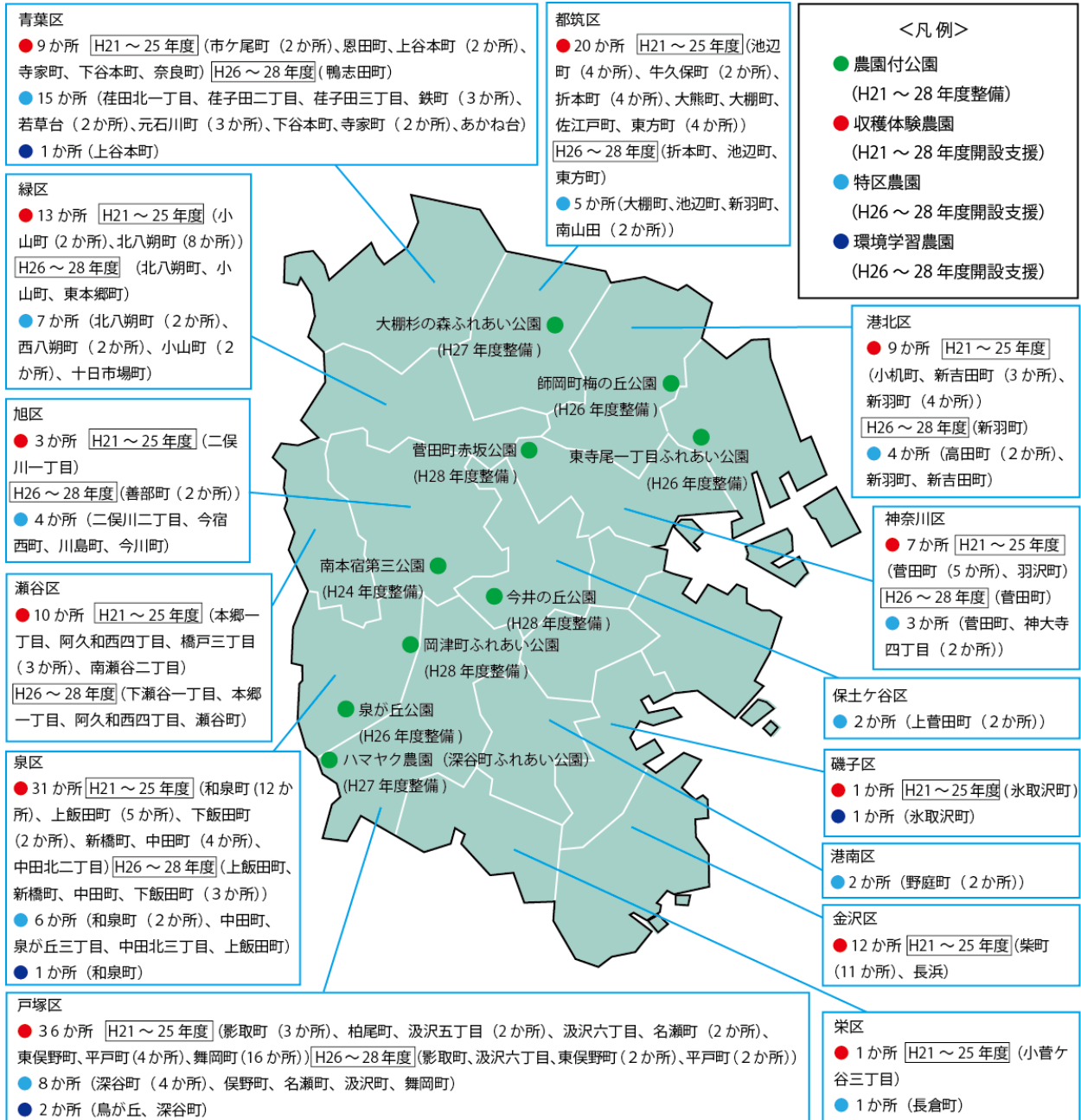


取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

農園の開設が進んでいます

野菜の収穫や果実のもぎとりなどを気軽に体験できる収穫体験農園、本格的な農作業が出来る農園付公園を整備するなど、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設が進んでいます。

<農園の開設状況>



農園付公園



収穫体験農園



特区農園



環境学習農園

(2)取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

景観や生物多様性の保全など農地が持つ環境面での役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

施策1 農に親しむ取組の推進

事業① 良好な農景観の保全

◆事業概要(計画書から抜粋)

集団的な農地から構成される広がりのある景観や、樹林地と田や畑が一体となった谷戸景観など、多くの市民に親しまれてきた農景観を次世代に継承するため、水稻作付を10年間継続する水田への奨励金交付や、地域の団体に共同利用する管理用設備の整備支援、意欲ある農家・NPO法人などが農地を安定的に利用できるよう農地を長期間貸し付ける取組などを推進します。

◆実績

項目	28年度		3か年の実績※	5か年の目標
	目標	進捗状況※		
取組10	水田の保全			
水田保全承認面積	累計 122ha	新規申出 1.9ha	累計 122ha	累計 125ha
水源確保施設整備	2か所	2か所	4か所	10か所
取組11	特定農業用施設保全契約の締結			
制度運用	制度運用	申請受付 14件	40件 (受付のみ含む)	制度運用
取組12	農景観を良好に維持する取組の支援			
良好に維持されている農地の面積 (集団的農地保全団体支援事業)	721.0ha	723.3ha	723.3ha	680.0ha
田園景観保全水路整備	1地区	3地区	6地区	5地区
共同利用設備の整備	5件	2件	5件	25件
取組13	多様な主体による農地の利用促進			
長期貸付開始農地	新規 2.0ha 累計 79.0ha	新規 2.4ha 累計 79.4ha	新規 17.1ha 累計 79.4ha	累計 80.0ha

※平成28年11月末時点



夏の水田(戸塚区東俣野町)



秋の水田(緑区北八朔町)



指定された農業用施設(瀬谷区阿久和東)



農地周辺部における景観植物の植栽を支援した農地(磯子区氷取沢町)

事業② 農とふれあう場づくり

◆事業概要(計画書から抜粋)

食と農への関心や、農とのふれあいを求める市民の声の高まりに応えるため、収穫体験農園や本格的な農作業ができる市民農園(栽培収穫体験ファーム、農環境学習農園、特区農園)の開設支援のほか、土地所有者による維持管理が難しくなった農地等を市が買取るなどして、農園を主とした都市公園の整備を進めます。また、市民と農との交流拠点である横浜ふるさと村や恵みの里での取組の推進や、市内の生産現場や直売所などの流通現場を巡るツアーの開催など、市民が農とふれあう機会を提供します。これらの取組の情報発信を充実させることにより、市民の利用や参加につなげます。

◆実績

項目	28年度		3か年の実績※	5か年の目標
	目標	進捗状況※		
取組 14 様々なニーズに合わせた農園の開設				
収穫体験農園の開設支援	2.5ha	1.1ha	3.6ha	12.5ha
市民農園の開設支援	1.2ha	1.4ha	6.4ha	6.0ha
農園付公園の整備	1.3ha(3か所)	整備中:1.3ha (3か所) 設計中:1か所	4.1ha (整備中含む)	7.3ha

取組 15 市民が農を親しみ支援する取組の推進				
ふるさと村・恵みの里の農体験教室など	100回	実施承認済 80回	263回 (実施予定含む)	500回
あぐりツアー開催	4回	3回	9回	20回
農のある地域づくり協定	2件	1件	3件	4件
農体験講座	5回	5回	15回	25回

※平成 28 年 11 月末時点



開設支援された収穫体験農園
(緑区鴨居東本郷町)



開設支援された特区農園(戸塚区汲沢町)



市内の生産現場や直売所などの流通現場を
めぐる「あぐりツアー」(保土ヶ谷区西谷町)



「家族で学ぶ農体験教室」
(保土ヶ谷区環境活動支援センター)

市担当者からのコメント(環境創造局農政推進課)

横浜市では、他都市と比較して多種多様な市民農園が多数開設されており、個人だけでなく、幼稚園や小学校でも農体験ができる環境学習農園などの取組も広がっています。利用のお問合せに対し、適時、農園の紹介に努めていますが、大部分の農園にて区画に空きがないほど、とても人気があります。

老若男女問わず、誰もが農とふれあえるよう、引き続き横浜市内各地での市民農園の開設をサポートしていきたいです。

◆施策1についての評価・提案

- ・水田保全奨励など、主要な取組については概ね目標を達成していますが、共同利用設備の整備など一部の取組では目標を達成できていません。
- ・横浜に残る貴重な水田景観の保全に向け、次年度以降も取組を進めてください。
- ・収穫体験農園の開設は、人手不足を理由に目標に届いていません。今後は、成功している農家の手法を伝えていきながら、負担感の軽減につながる開設方法の周知が求められます。
- ・子供たちの環境教育の場として、環境学習農園の推進に加えて、計画で保全された水田の見学などができるように活動の場が広がるとよいと思われます。
- ・体験型の農園は、30代、40代や子持ち世帯などの利用が比較的多いです。これら忙しい世代をどのように取り込んでいくか工夫が必要です。
- ・農園付公園の開設は目標を上回る実績を上げています。多様な農園があることで、市民の様々なニーズに応じることができるので、今後もそれぞれの農園の開設を推進してください。
- ・計画の内容やメリットについて、現役世代に限らず後継者世代への周知も引き続き行ってください。

施策2 地産地消の推進

事業③ 身近に感じる地産地消の推進

◆事業概要(計画書から抜粋)

地域でとれた農畜産物などを販売する直売所の整備等の支援や、市内で生産される苗木や花苗を配布するなど、地産地消の取組を拡大します。さらに、地産地消に関わる情報の発信など、市民が地産地消を身近に感じるための取組を推進します。

◆実績

項目	28年度		3か年の実績※	5か年の目標
	目標	進捗状況※		
取組16 地産地消にふれる機会の拡大				
直売所の整備・施設拡充の支援	15件	9件	24件	52件
青空市運営支援	5件	5件	14件	25件
緑化用植物の生産・配布	23,500本	24,104本	77,745本	125,000本
情報発信・PR活動	推進	推進中	推進	推進

※平成28年11月末時点



備品購入を支援した直売所(泉区和泉町)



運営を支援している青空市(西区みなとみらい)

よこはまの畑と暮らしを結ぶ情報誌

はまふうどナビ

事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開

◆事業概要(計画書から抜粋)

市民の「食」と、農地や農畜産物といった「農」をつなぐ「はまふうどコンシェルジュ」などの地産地消に関わる人材の育成やネットワークの強化を図るとともに、農と市民・企業等が連携する取組を推進します。

◆実績

項目	28年度		3か年の実績※	5か年の目標
	目標	進捗状況※		
取組 17	地産地消を広げる人材の育成			
はまふうどコンシェルジュの活動支援	20件	25件	61件	100件
フォーラムの開催	1回	実施に向け調整中	3回 (調整中含む)	5回
取組 18	市民や企業等との連携			
企業等との連携	10件	11件	24件	50件
ビジネス創出支援	7件	5件	10件	25件
学校給食での市内産農畜産物の利用促進	推進	一斉供給(7月米、11月ダイコン)、はま菜ちゃん料理コンクール本選	推進	推進

※平成28年11月末時点



はまふうどコンシェルジュの活動支援
(市民向け収穫体験の実施)(栄区)



企業等との連携(レストランでの市内産農畜産物を使ったメニューの提供)(西区みなとみらい)



ビジネス創出支援(摘果した青みかんによるドレッシングの開発)



学校給食での市内産農産物の利用促進
(はま菜ちゃん料理コンクール本選)

市担当者からのコメント(環境創造局農業振興課)

・はまふうどコンシェルジュによる活動や企業等との連携の件数は年々増えており、市民や企業の皆様の地産地消に対する熱意が高まっていると感じます。引き続き、連携を強化しながら、市民の皆様が身近に農を感じられる様々な取組を進めていきたいと思えます。

◆施策2についての評価・提案

- ・全体的に、目標に向けて取組が順調に進んでいます。
- ・地産地消の取組の広がりは評価しますが、普段食べる野菜が近くの畑で採れているという、消費者と生産者のつながりや食文化との関わりなど、地産地消の原点に返った取組を期待します。
- ・企業等との連携が着実に進んでいますが、地産地消の市民への浸透に向けその連携の輪がさらに広がるように取組を推進してください。
- ・スーパーと連携し、直売所に行けない層も地元産農畜産物が購入しやすいような販路の拡大を希望します。

「農を感じる」施策を検討する部会 部会長コメント
(300～500 字程度)